

# 「次期行政改革大綱」 骨子検討案

## 1. 目的

人口減少と少子化・高齢化が進む社会において、厳しい財政状況の下、行政改革を進めて、はばたけ群馬プランに基づく取組みをはじめとする諸施策を着実に進めるとともに、県民ニーズを敏感に感じとり、新たな行政施策にしっかりと対応できる体制をつくる。

## 2. 3つの目標に基づく改革

前大綱が掲げていた3つの目標を継承し、環境の変化に合わせ、取組をさらに深化させる。

### 目標 1 県民目線による県政の実施

県政においては、県民が最大の“顧客”であり、事務事業を執行する上では、現場の声に耳を傾け、目で見、肌で感じる事が重要である。

多様化する情報技術を上手く活用し、県民参加の前提となる県政情報について、効果的な発信に努めるとともに、従来から取り組んでいるパブリックコメントや審議会など県民意見を反映する仕組みの更なる充実を図るなど、今後も県民との意思疎通を重視していく。

また、県民の視点に立って、行政手続きの見直しや県と市町村、他の都道府県との連携・協力を引き続き推進する。

#### <具体的な改革>

- (1) 情報提供・情報発信手段の充実
- (2) 県民意見の反映手段の充実
- (3) 行政手続きにおける利便性の向上
- (4) 地方分権改革と自治体間連携の推進

### 目標 2 「仕事の仕方」の改革

限られた人員・財源の中で新たな課題に対応していくためには、従来と同じ方法で仕事をしていただけでは、いずれ限界が生じ、サービスの提供に支障も生じかねない。

事務事業のスクラップアンドビルドを継続して進めるとともに、内部管理事務の集中化や手順の見直しなどによる効率的な行政運営のほか、民間との連携、民間ノウハウの活用によるサービスの品質向上などといった「仕事の仕方」の改革に取り組む。

また、個々の職員の能力向上や時代・環境の変化に応じた組織体制の整備を進めるとともに、組織を有効に機能させるため、マネジメントの強化を図る。

＜具体的な改革＞

- (1) 事務処理の効率化
- (2) 民間活力やノウハウの効果的な活用
- (3) 自治を担える人づくり、柔軟でしなやかな組織づくり

**目標3 健全な財政運営の維持**

引き続き、健全な財政運営に努めるとともに、貸付金の適切な管理や資産の有効活用、財源確保を意識した施策展開など、これまで不足しがちであった視点からの取組を強化する。

＜具体的な改革＞

- (1) 歳入確保と歳出縮減
- (2) 資産の適正管理と有効活用
- (3) 公営企業改革

**3. 改革に当たっての取組姿勢**

---

- (1) 県民目線と現場主義
- (2) 広い視野と挑戦意欲
- (3) スピード感とコスト意識

**4. 改革の効果的な推進**

---

- (1) 職員の意識への浸透  
各所属において取組姿勢や実施計画を議論
- (2) 実施計画に基づく進捗管理  
成果目標、具体的な取組及び工程を示す実施計画を作成し、年度終了ごとに評価・検証を行い、進捗を管理
- (3) 推進体制  
群馬県行政改革推進会議（議長：知事）の下に実施委員会を設置して全庁的に推進  
県民や有識者で構成する群馬県行政改革評価・推進委員会からの助言等

**5. 推進期間**

---

3年間（平成26～28年度）